

巻頭言

危険ドラッグ

国内各所で相次ぐ「脱法ハーブ」の吸引による交通事故！厚生労働省と警視庁は「脱法」という表現が「危険ではない」と誤解を与えると以前より指摘されていたことから、平成26年7月に「脱法」から「危険」へと呼称を変更しました。「危険ハーブ」は「危険ドラッグ」の一種で、合成カンナビノイドを含有する化合物です。合成カンナビノイドは、大麻の薬理成分であるテトラヒドロカンナビノール（THC）の効果を模倣した合成品です。

当初「危険ハーブ」は、乾燥した大麻草が含まれている可能性が指摘されていましたが、製品から大麻草自体が検出される例はほとんどありませんでした。したがって「危険ハーブ」は、乾燥した植物片に化学物質を混在させた化合物であり、芳香剤や観賞用の名目で巧妙にヒトに乱用させることを目的として販売されているため、摘発は困難といわれています。

厚生労働省は2007年から、人体への有害性を確認した上で、薬事法の取り締まり対象とする「指定薬物」制度をスタートさせましたが、主成分（合成カンナビノイド）の化学式を一部だけ変えた「新製品」が後を絶たず、規制とのいたちごっこが続いています。これに加えて、覚醒剤に酷似した α -PVP（覚醒剤に似た成分、2013年3月に麻薬指定）を含む薬物が販売されているという報告もあります。

「危険ハーブ」は麻薬や覚醒剤につながる入門薬物（ゲートウェイ）とも呼ばれています。人体への影響が未確認な成分も多く、治療方法も確立されていません。そのため、「禁止薬物」以上に危険だとも言われています。精神科領域で活躍されている会員の皆さんは、「危険ハーブ」を一回でも吸引すれば乱用になること、合法という名前で死の危険性があること、人生の破滅に繋がることを青少年に早く伝え、薬物乱用を防止する必要があります。ドラッグは「買わない、使わない、かかわらない」を徹底してください。

副代表世話人 野田 幸裕

2014年度全国処方調査協力依頼

PCP研究会では、本邦の統合失調症に対する処方実態・動向を把握するため、2006年以降毎年処方調査を行っています。昨年度の調査では、全国135施設より総計19,168例ものデータをご提供いただきました。業務繁多にも拘らずご協力いただきました先生方、改めてお礼申し上げます。その結果、睡眠薬に関しても早期から適正使用を推進する必要があると思われました。

さて今年も例年同様、10/31（金）に全国調査を行います。昨年を上回るデータ（25,000例）を収集し、より詳細な実態把握を目指したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。参加を希望されるご施設は、メールにて事務局までご連絡ください。



PCP調査委員会 東海ブロック世話人 宇野 準二

2014年度上期の活動状況

先生方のお名前は敬称略で記載させて頂いております。

ブロック	開催地	開催日	特別講演	症例検討	追加プログラム 病院紹介/ショートレクチャー	参加人数		
北海道	札幌	6月15日	手稲病院 中山 誠	手稲病院 中山 誠	北海道大学病院 石川 修平	47		
東北	仙台	6月15日	東北大学 松岡 洋夫	もりおか 心のクリニック 上田 均	東邦大学薬学部 吉尾 隆 (特別講演)	千歳篠田病院 小林 厚子	68	
関東・ 甲信越	東京	10月 5日	杏林大学 菊地 俊暁	青山学院大学 稲垣 中	森病院 萩原 薫季	桜ヶ丘記念病院 佐藤 康一	桜ヶ丘記念病院 船木 桂	—
	大宮	6月15日	埼玉医科大学 太田 敏男	自治医科大学 須田 史朗	—	西熊谷病院 福島 泰輔	—	31
	千葉	7月 6日	船橋北病院 三田 朋美	口ザリオの聖母会 海上寮療養所 佐多 範洋	—	しのだの森ホスピタル 増田 由佳子	—	20
東海	名古屋	8月 3日	名古屋大学医学部附属病院 岡田 俊	名古屋大学 医学部附属病院 岡田 俊	桶狭間病院 竹内 一平	沼津中央病院 深井 敬子	—	34
北陸	金沢	8月10日	富山大学附属病院 樋口 悠子	福井大学 田中 悠二	—	福井県立病院 川崎 美雪	—	35
近畿	大阪	8月 3日	奈良県立医科大学 岸本 年史	奈良県立医科大学 松田 康裕	—	大阪大学医学部附属病院 井上 頌子	—	74
中国・ 四国	米子	9月13日	鳥取大学 兼子 幸一	鳥取大学 横山 勝利	—	島根大学医学部附属病院 今岡 広輔	—	19
	松山	9月14日	愛媛大学 上野 修一	松山記念病院 園部 漢太郎	松山記念病院 中川 聡	—	—	20
九州	福岡	8月17日	久留米大学 富田 克	産業医科大学 堀 輝	—	雁の巣病院 河端 崇	—	117
	沖縄	10月 5日	県立精和病院 前田	琉球大学 中村	—	—	—	—

第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会 合同年会 & 第8回精神科専門薬剤師セミナーのご案内

第24回日本臨床精神神経薬理学会・
第44回日本神経精神薬理学会 合同年会
テーマ：双方向性トランスレーショナル研究の実現
：Bridging the gap between bedside and bench
日 時：2014年11月20日(木)～22日(土)
会 場：名古屋国際会議場

第8回精神科専門薬剤師セミナー
テーマ：統合失調症の服薬支援における薬剤師の役割
～患者さんのリハビリ実現に向けて～
日 時：2014年11月23日(日)
会 場：東別院会館(名古屋)

今年で8回目を迎える精神科専門薬剤師セミナーは昨年同様、特別講演に加え、一般演題、ランチョンセミナー、症例ビデオを用いたパネルディスカッションと、盛り沢山の内容が企画されています。また、前日まで同じ名古屋で上記学会の合同年会も開催されますので、ご都合のつく先生は是非ご参加ください。

中国・四国ブロック世話人 北川 航平

ブロック紹介 ～近畿ブロック～

2014年度上期講演会は、8月3日(日)に梅田スカイビルの36階にあるとても見晴らしの良い会議室で開催しました。このビルは大阪駅の近くで、話題のグランフロントを抜けたところにあり、空中庭園で有名です。講師には特別講演に奈良県立医科大学 精神医学講座 教授 岸本年史先生を、ワークショップには同講座 助教 松田康裕先生、活動紹介では大阪大学医学部附属病院 薬剤部 井上頌子先生をお招きし、大変興味深いご講演をしていただきました。

近畿ブロック講演会では精神科病院の先生だけでなく、大学病院や総合病院、調剤薬局の先生も多く参加されています。会場では休憩時間なども利用して、それぞれの立場から精神科薬物療法に関する様々な意見を出し合い、活発な意見交換が行われていました。他のブロックの先生方も近畿ブロックの講演会に参加して頂き、関西の精神科薬剤師と交流してみたいかがでしょうか。

近畿ブロック世話人 宮原 佳希

みんなねっと石川大会のお知らせ

第7回全国精神保健福祉家族大会みんなねっと石川大会が10月16日(木)、17日(金)の両日金沢市で開催されます。今回も精神科臨床薬学研究会では石川県病院薬剤師会の先生方と一緒に会場内の展示ブースに「お薬相談コーナー」を設けます。毎回このコーナーは、お薬に関して日頃より疑問に思っていること、不安に感じていること、また困っていることなど多くの相談を頂いております。今回もこの「お薬相談コーナー」が、ご本人やご家族の方々に少しでもお役に立つことが出来ればと願っております。

金沢市は歴史と伝統文化が息づく落ち着いた城下町です。会場となる金沢歌劇座は兼六園や金沢城公園、また話題の21世紀美術館に近く、観光するにも最高の場所です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

北陸ブロック世話人 中川 将人



第110回日本精神神経学会学術総会発表報告 於 2014年6月26日(木)～28日(土)：パシフィコ横浜

上記学会学術総会において、全国処方調査の結果について「統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査(2013年)～全国124施設の調査から～ その1」という演題で発表してきました。初日で早朝の発表にもかかわらず、会場は満席で座れない方も多く、PCP研究会の調査結果についての関心の高さを痛感し、今後も調査を継続してこない、結果を公開していくことが重要であると感じました。

関東・甲信越ブロック世話人 高橋 結花

今回、私は全国のPCP研究会の会員の先生方からご協力頂いた貴重なデータをもとに、「統合失調症患者の薬物療法に関する処方実態調査(2013年)～全国124施設の調査から～ その2」と題して、主に第2世代の抗精神病薬の使用状況について報告させて頂きました。

初日、朝一のセッションにもかかわらず会場は満員で、自身約20年ぶりとなる学会発表に緊張しまくりでしたが、無事に終える事が出来ました。第2世代の抗精神病薬の処方用量上限を超える処方、クロザリルの多剤併用処方等々今後の課題も浮き彫りとなり、有意義な発表となりました。今回、発表の機会を与えて頂き、心より感謝しております。今後ともよろしくお願いたします。

九州ブロック世話人 高田 憲一

2014年度下期ブロック講演会開催(予定)のご案内

ブロック	場 所	開 催 日	会 場
北海道	札 幌	11月15日(土)	大塚製薬 札幌支店
東 北	盛 岡	11月30日(日)	マリオス盛岡
関東・甲信越	東 京	3月 8日(日)	秋葉原UDX GALLERY 4F TypeS
	千 葉	1月25日(日)	大塚製薬 千葉支店
	大 宮	2月22日(日)	ラフレさいたま
東 海	名古屋	2月 8日(日)	未定
北 陸	金 沢	3月1日(日)または 8日(日)	未定
近 畿	大 阪	2月 8日(日)	梅田スカイビル
中国・四国	岡 山	3月14日(土)	岡山コンベンションセンター
	高 松	1月25日(日)または3月1日(日)	未定
九 州	福 岡	2月 1日(日)	福岡国際会議場
	沖 縄	2月15日(日)	沖縄県男女共同参画センター「ているる」

※開催日および会場は、都合により変更となる場合がありますので、詳細はPCP研究会ホームページの活動状況欄をご覧ください。

事務局
掲示板

■2014年度会費(2014年4月～2015年3月分、年会費：2000円)

年会費のお支払いは、ご出席の講演会開催前までにお振り込みにてお願いいたします。

【郵便局】口座名：精神科臨床薬学研究会 口座番号：00170-2-578959

*通信欄に、必ずご施設名、お名前、会員番号をご記入ください。
(会員番号は、Newsletterの封筒の宛名シールに記載されています。)

■講演会プログラム

講演会開催日1ヶ月前を目処に各講演会プログラムをホームページ
<www.pcp-rg.org>に掲載しております。

■特別講演DVD「抗精神病薬からみる精神疾患治療 -多様な疾患への適応、開発中の薬剤も含めて-」

2014年度上期講演会を欠席された会員の皆さまにDVDを貸出しております。
希望される方は事務局までご連絡ください。バックナンバー(演題はホームページに掲載)の貸出しも受け付けております。

■事務局連絡先

〒104-0033 東京都中央区新川1-2-8 第5山京ビル6階 株式会社ネオファルマ 内
E-mail: contact@pcp-rg.org (メールには必ず、1.施設名、2.氏名を記載して下さい。)
FAX: 03-5540-3011 URL: <http://www.pcp-rg.org/>

【編集後記】

この夏は日本各地で大雨による災害が続きました。予想を超える雨量とはいえ、危機管理意識を問われています。我々薬剤師も危機管理意識の有無が、重大なアクシデントを未然に防ぐのです。精神科は薬物療法が治療の大きな柱です。全ては患者さんのために、頑張りましょう(T.H)。

